

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mailで [gpjimu@tenmon.or.jp](mailto:gjimmu@tenmon.or.jp) 宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄Faxでお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

名古屋大学大学院理学研究科
素粒子宇宙物理専攻教官

1. 助手1名
2. 宇宙物理学研究室
3. 飛翔体を用いたX線観測による宇宙物理学の研究とX線観測技術の開発研究。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. 履歴書, 研究歴, 研究業績の概要 (2000字以内), 業績リスト, 研究計画 (2000字以内), 主要論文別刷, 推薦書または応募者について照会可能な者2名の氏名と連絡先
8. 1999年9月30日(木)
9. (1) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科物理学教室主任
富松 彰
(2) 同教室 宇宙物理学研究室 山下廣順
電話: 052-789-3540 FAX: 052-789-2919
10. 書類はA4用紙を使用し, 封筒に「助手応募書類在中」と朱書すること。

京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学
専攻教官公募

1. 助手1名
2. (1) 物理学第二教室, 天体核研究室
3. 天体核物理学
5. (1) 決定後なるべく早い時期
7. ○履歴書, ○業績リスト, ○主要論文別刷2-3編程度, ○現在までの研究概要, ○着任後の研究計画, ○着任可能時期
8. 1999年10月15日(金)必着
9. (1) 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院理学研究科物理学第二教室
主任 笹尾 登
(2) 同上 佐藤文隆 電話: 075-753-3831
sato@tap.scphys.kyoto-u.ac.jp
同上
杉山 直
電話: 075-753-3883
naoshi@tap.scphys.kyoto-u.ac.jp
10. 封筒に「応募書類在中」と朱書し, 簡易書留で送付のこと

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学
専攻教官公募

1. 助教授1名
2. (1) 地球惑星物質圏科学講座
(2) 札幌市北区北10条西8丁目
3. 地球化学またはそれに関連する諸分野。今後の新しい分野の開拓に意欲的な方を歓迎します。
5. 2000年4月1日
7. (1) 履歴書 (内外の学会活動, 受賞歴, 参加しているプロジェクト研究歴, 各種研究費受領歴, 学位審査履歴 (主査・副査のほか実質的指導を含む), 非常勤講師の経歴, 公的機関の委員の履歴なども記載すること), (2) これまでの研究経過 (2,000字程度), (3) 研究業績目録 (和文のものは和文で表記すること。A. 査読のある原著論文, B. 査読なし論文, 総説など, C. 著書, D. 解説, 報告などその他の出版物で特に参考になるものに分類すること), (4) 主な原著論文別刷または著書10篇 (複写可), (5) 今後の教育・研究の計画・抱負 (2,000字程度)
8. 1999年11月1日(月)必着
9. (1) 〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻
岡田尚武

(2) 同上

電話: 011-706-3537 (ダイヤル・イン)

ファックス: 011-746-0394

電子メール: oka@cosmos.sci.hokudai.ac.jp

10. 封筒の表に「教官公募関係」と明示し、簡易書留にて郵送すること。

京都大学基礎物理学研究所教官公募

1. 助教授 1 名
3. 相対論的宇宙物理学
5. (1) 決定時期は平成 12 年 1 月下旬。決定次第できるだけ早い時期に着任されることを希望します。
(2) 5 ~ 10 年
7. (イ) 自薦の場合は下記 (a) ~ (f) の書類各 2 通
(ロ) 他薦の場合は推薦書と下記 (a) ~ (f) の書類各 2 通
(a) 履歴書, (b) 発表論文リスト (主要論文 5 点以内に印を付けること), (c) 前項で印を付けた論文の別刷 (5 点以内, コピー可), (d) 研究歴, (e) 就任した場合の研究計画, (f) 着任可能時期
8. 平成 11 年 10 月 29 日 (金) 必着
9. (1) 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学基礎物理学研究所
所長 益川敏英
(2) 益川敏英 (tel: 075-753-7033 直通)
10. 封筒の表に「助教授応募(推薦)書類在中」と朱書して下さい。また、提出書類は原則としてお返しいたしません。

鹿児島大学理学部教官公募

1. 助手 1 名
2. (1) 鹿児島大学理学部物理科学科宇宙情報講座
3. 宇宙科学分野
4. 当講座は宇宙コース(平成 9 年 4 月設置)の学生並びに理工学研究科の大学院生(博士前期・後期課程)の教育, 研究の指導を行っている。最先端の宇宙科学研究を活発に展開できる方を望む。なお, 専門の宇宙科学に関連する学生実験を指導できる方。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 博士の学位を有していること(平成 12 年度 3 月取得見込みの方も含む)
7. (1) 履歴書, (2) 業績リスト(査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと), (3) 主要論文別刷(5 編以内, コピー可) (4) これまでの

研究概要(2000 字程度), (5) 鹿児島大学での研究計画(2000 字程度), (6) 宇宙コースの学生をどう育てるかについての抱負(1000 字程度), (7) 応募者に関する所見を伺うことのできる方(2 名以上)の氏名及び連絡先

8. 1999 年 11 月 30 日 (火) 必着
9. (1) 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35
鹿児島大学理学部物理科学科長
川上正之
(2) 面高俊宏 TEL 099-285-8973
e-mail: jinji@libastro.cla.kagoshima-u.ac.jp
10. ・応募封筒の表に「宇宙コース助手応募書類在中」と朱書すること。
・選考の最終段階に面接を行うことがある。
・当講座の宇宙電波グループは国内 VLBI ネットワークの運営と国立天文台から概算要求中の VERA 計画実現の重要なメンバーである。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

宇宙科学研究所宇宙圏研究系高エネルギー天体物理学第三部門教授

1. 平成 11 年 4 月号
2. 国枝秀世(名古屋大学院理学研究科助教授)
3. 9 月 1 日

宇宙科学研究所宇宙圏研究系赤外線天体物理学部門教授

1. 平成 11 年 4 月号
2. 中川貴雄(宇宙科学研究所次世代探査機研究センター助教授)
3. 7 月 1 日

宇宙科学研究所宇宙圏研究系原始宇宙物理学部門助手

1. 平成 11 年 4 月号
2. 山村一誠(アムステルダム大学宇宙研究所研究員)
3. 11 月 1 日

宇宙科学研究所共通基礎研究系宇宙計測システム部門助教授

1. 平成 11 年 4 月号
2. 坂尾太郎 (国立天文台野辺山太陽電波観測所助手)
3. 7 月 1 日

共同利用・共同研究

X線天文衛星「ASTRO-E」によるX線観測の第1期公募のご案内 (AO1)

宇宙科学研究所では次期X線天文衛星 ASTRO-E の 2000 年 1 月打ち上げを予定しております。この衛星には X 線望遠鏡とその焦点面検出器, 硬 X 線検出器が搭載されます。特に高いエネルギー分解能を持つカロリメータにより新たな観測の可能性が期待されており, 以下の要領で観測プログラムの公募を行っています。

1. 公募項目: X線天文衛星 ASTRO-E による 2000 年 8 月より 9 ヶ月間の X 線天文観測
2. 応募締切: 1999 年 9 月 17 日 (金)
3. 応募方法, 資料の詳細は宇宙科学研究所 ASTRO-E ホームページをご覧ください。

<http://www.astro.isas.ac.jp/xray/mission/astroe/astroe.html>

文部省 宇宙科学研究所 井上 一
名古屋大学大学院理学研究科 国枝秀世

研究会・集会案内

第 9 回一般相対論と重力研究会

日 時: 1999 年 11 月 3 日 (水) ~ 6 日 (土)

場 所: 広島大学理学部 E 棟

内 容: 重力に関する問題は極めて多岐にわたるものとなり, 細分化が進んでいる。この研究会では, 様々な分野の研究者が広く交流できる場を持つことが目標であり, 一般相対論はもちろん様々な拡張理論, 古典重力理論から量子重力理論, また数物理的な問題から, 実験・観測的な問題まで重力に関する問題を幅広く取り上げる。

講演申込: 1999 年 10 月 15 日 (金) 必着。

連絡先: 〒 739-8526 東広島市鏡山 1-3-1

広島大学理学部物理科学科

小島康史または山本一博

電話: 0824-24-7365, 0824-24-7369

FAX: 0824-24-0717

Email: grg@theo.phys.sci.hiroshima-u.ac.jp

☆ 講演申込および旅費補助の申込については, 上記連絡先に (なるべく E-mail で) お問い合わせください。また, 詳細については, ホームページを御参照下さい。
<http://theo.phys.sci.hiroshima-u.ac.jp/~grg/>

会務案内

「内地留学に関する奨学金の内規」の改訂について

日本天文学会が実施している内地留学奨学金の応募にあたり, 今まで以上に応募しやすくすることを主な目的として, 7 月に開催された理事会並びに評議員会での議論を経て内規を改訂することとなりました。主な改訂点は以下の通りです。

- ・ 留学希望先機関は, これまでは研究機関のみであった。これを教育研究機関としたことにより希望先の幅を広げた。
- ・ 申請書への記入事項として「研究歴」をやめ, 「天文観測, 研究, 教育普及活動歴」と変更した。これにより, 研究のみならず天文学に関係する各種活動でも応募できるようになります。
- ・ 奨学金受給者に課していた勤務先や学校からの留学許可等を学会として要求することを内規に書かないこととした。これは, 留学にあたっては, 所属する職場や学校の規定を守ることがより重要であるとの判断によります。
- ・ 報告書の提出期限をこれまでの 1 ヶ月から 2 ヶ月に延長し, より良い報告書を書いていただけるように配慮した。

改訂後の内規は以下のようになります。

内地留学奨学金に関する内規 (昭和 54 年 5 月施行)
(平成 9 年 3 月変更)
(平成 11 年 7 月変更)

第 1 条 日本天文学会は, 大塚寛治氏より寄付された 100 万円, 五藤光学研究所より寄付された 100 万円, 並びに佐藤明達氏より寄付された 100 万円を基金として, 内地留学奨学金を設ける。

第 2 条 本奨学金は, 日本国内の教育研究機関における天文学及びそれに関連する分野の研究を目的とする, 短期間の内地留学のための経費として支給する。

- 第3条 本奨学金を受ける者は本会会員とし、支給対象者数は若干名とする。
- 第4条 本奨学金を希望するものは、次の事柄を所定の用紙に記入し、留学希望年度の前年の9月末日までに、理事長に申し出ること。
1. 氏名、生年月日、年齢、性別
 2. 現住所
 3. 学歴
 4. 職業
 5. 留学題目及び研究計画
 6. 内地留学を希望する教育研究機関
 7. 内地留学を希望する期間と日程
 8. 奨学金として支給を希望する額
 9. これまでの主な天文観測、研究、教育普及活動歴
- 第5条 本奨学金を受ける者を選考するため内地留学奨学金選考委員会（以下選考委員会という）を設ける。
- 第6条 選考委員会は理事長の指名する正会員6名（内1名、委員長）以内で組織する。
- 第7条 選考委員の任期は2年とする。選考委員の改選は日本天文学会理事の改選と同時に行う。
- 第8条 選考委員会は第4条による申し出のあったもののなかから研究計画、希望する各教育研究機関の受け入れ態勢、基金の総額、などを考慮して奨学金を支給するものを決める。
- 第9条 第4条による申し出のあった者について、選考委員会は選考のための参考資料の提出を求めることがある。
- 第10条 奨学金を受けた者は留学終了日より2ヶ月以内に留学成果報告書を本会理事長に提出しなくてはならない。
- 第11条 奨学金を受けた者で事情により予定の内地留学を遂行できなくなった者は奨学金の一部または全部を返却しなくてはならない。

庶務理事 大石雅寿

正会員各位

社団法人日本天文学会 理事長 尾崎洋二

1999年度秋季総会開催のお知らせ

一同封の返信用葉書で10月4日(月)までに到着するようご投票を！

下記の通り1999年度秋季総会を開催いたしますので、ご出席下さるようご案内申し上げます。

総会は本会の最高決定機関で、総会成立には正会員の5分の1以上の出席が必要です(定款第42条)。欠席され

る場合には、下記の議案および説明をよくお読みの上、次の(1)または(2)のどちらかの対応して下さい。いずれの場合も、総会出席とみなされます。

- (1) 天文月報9月号にとじ込みの総会返信用葉書(以下「葉書」と呼ぶ)を用いて賛否の意志を表明する。
- (2) 他の出席予定者の正会員に表決権の行使を委任する。「葉書」は、10月4日(月)までに天文学会事務室に到着するように投函して下さい。「葉書」には切手を貼る必要はありません。「投票および委任状の書き方」を参照して下さい。

「投票および委任状の書き方」

総会に出席できない会員は、「葉書」で議案に対する賛否の意志表示をするか、委任状を提出して下さい。(委任状はとくに指定の用紙はありません。)

賛否の意志表示をされる方は、第1号及び第2号の議案について「賛成」、「反対」のいずれかを○で囲んで下さい。賛成・反対以外にご意見があれば、所定の欄に記入し、書ききれないときは別紙に書いて事務室宛にお送り下さい。

なお、次の投票は無効となり、出席会員数に数えられません。

- 1) 所定の「葉書」を用いないもの。
- 2) 会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 氏名を自署していないもの。
- 4) 投票権のない者からの投票。
- 5) 2重投票

次の票は出席会員数には入れるが、棄権票として扱います。

- 1) 賛成、反対の意思表示をせず、意見だけを書いた票。
- 2) 白票。

委任状については、次の場合に無効となります。

- 1) 委任正会員の氏名、自署、捺印のいずれかを欠くもの。
- 2) 委任正会員の会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 被委任正会員の氏名を欠くもの。
- 4) 被委任正会員が総会に出席しない場合。
- 5) 被委任正会員として、単に役職名の“理事長”または“議長”と書かれたもの。

1999年度秋季総会議題

日時：1999年10月8日(金)17時00分～18時20分
場所：九州大学六本松キャンパス新1号館N110
議案

- 第1号議案：2000年度事業計画(案)……………資料1
第2号議案：2000年度収支予算(案)……………資料2
議案の内容は以下の資料をご参照下さい。

【資料1】

社団法人日本天文学会事業計画書(案)

2000年度(2000年1月1日～2000年12月31日)

1. 出版物の刊行

1) 欧文研究報告

第52巻1号～第52巻6号, 隔月刊, A4版, 発行部数1750, 年間900頁, 電子化出版。

2) 天文月報

第93巻1号～第93巻12号, 月刊, B5版, 発行部数3400を予定。

3) 年会講演予稿集

春・秋季年会の講演予稿集2巻, 発行部数800を予定。

2. 年会・総会の開催

1) 春季年会を2000年4月3日(月)から5日(水)にわたって, 東京大学にて開催する。年会に先だって, 年会講演から数件トピックスを選び, 報道機関と会見し資料を提供する。4月4日(火)に研究奨励賞受賞者の講演を予定, その後通常総会を開催する。又, 公開講演会を4月2日(日)に予定。

2) 秋季年会を2000年10月5日(木)から7日(土)にわたって, 伊勢崎市にて開催する。年会に先だって, 年会講演から数件トピックスを選び, 報道機関と会見し資料を提供する。10月6日(金)に特別講演会を予定, その後通常総会を開催する。又, 公開講演会を10月8日(日)に予定。両年会とも保育室を設置し, 年会参加者の子供を一時預かる。

3. 評議員会, 理事会

1) 評議員会

1月中旬, 7月上旬, 及び春・秋季年会会場にて開催予定。

2) 理事会

1月上旬, 7月上旬, 及び春・秋季年会会場にて開催予定。

4. 各賞の授与

1) 天体発見賞・天体発見功労賞

新天体の発見者に対して天体発見賞・天体発見功労賞を授与する。

2) 日本天文学会研究奨励賞

特に顕著な研究成果を挙げた若手研究者を選定し研究奨励賞を授与する。

3) 日本天文学会林忠四郎賞

天文学の分野において独創的で, かつ分野に寄与するところの大きい研究に対して林忠四郎賞を授与する。

4) 日本天文学会欧文報告論文賞

日本天文学会欧文報告に掲載された論文の中から, 特に優れた論文の著者に対して欧文報告論

文賞を授与する。

5. 助成金

- 1) 内地留学奨学金受給者の募集(主にアマチュアを対象)をし, 10月に選考し奨学金を授与する。
- 2) 早川幸男基金により, 若手天文研究者の海外に於ける観測, 国際共同研究, もしくは研究発表のための渡航費の奨助を行う。
- 3) IAU京都総会記念基金より, わが国で開かれる国際研究集会の開催にあたり, 会議出席の費用の捻出の困難な国からの参加者の参加費の奨助を行う。
- 4) 賛助会員会費による年会参加の正会員学生(講演者)の旅費の補助を行う。

6. 委員会及び委員

下記委員会は適宜開催する。

1) 欧文研究報告編集顧問

池内 了, 稲垣省五, 尾崎洋二, 木下 宙, 桜井隆, 佐藤勝彦, 佐藤文隆, 祖父江義明, 田原博人, 長瀬文昭

2) 欧文研究報告編集委員会

有本信雄(編集長), 大橋隆哉, 柴橋博資, 中井直正, 中村 士, 蜂巢 泉, 花岡庸一郎, 嶺重慎, 山田 亨

3) 天文月報編集委員会

上野宗孝(委員長), 大橋正健, 小野智子, 斉藤芳隆, 田村元秀, 土橋一仁, 内藤統也, 和田桂一

4) 年会実行委員会

吉川 真(委員長), 梅本智文, 加藤万里子, 小山泰弘, 土居 守, 山岡 均

5) 教育委員会

沢 武文(委員長), 縣 秀彦, 加藤万里子, 平野尚美, 毛利勝廣, 山縣明彦

6) 評議員選挙管理委員会

川村静児(委員長), 犬塚修一郎, 千葉稗司, 辻本拓司, 濱部 勝

7) 林忠四郎賞選考委員会(欧文報告論文賞を含む)

奥田治之(委員長), 尾崎洋二(ex-officio), 海部宣男, 杉本大一郎, 富田憲二, 山下広順

8) 研究奨励賞選考委員会

中井直正(委員長), 大橋隆哉, 林 正彦, 嶺重慎, 蜂巢 泉

9) 天体発見賞選考委員会

渡部潤一(委員長), 西城恵一, 中野主一, 中村士, 山岡 均

10) 内地留学奨学生選考委員会

黒田武彦(委員長), 綾仁一哉, 加藤太一, 中村泰久, 鈴木文二

11) 早川幸男基金選考委員会(IAU京都総会記念基金選考委員会委員を兼任)

大橋隆哉(委員長), 須藤 靖, 長谷川哲夫, 福

江 純, 吉田重臣

12) ネットワーク委員会

田中培生 (委員長), 鈴木知治

13) 天文教材委員会

半田利弘 (委員長), 石田俊人, 戎崎俊一, 太田耕司, 北本俊二, 福江 純

7. 後援事業

- 1) 毎年秋に行われる国立天文台の一般公開を後援する。
- 2) 他の学術団体の天文関係諸企画に対して可能な限り後援する。

【資料 2】

2000 年度収支予算書 (案)

(2000 年 1 月 1 日 ~ 2000 年 12 月 31 日)

【一般会計】

収入の部

(単位: 円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
基本財産運用収入	90,000	90,000
基本財産利息収入	90,000	90,000
会費収入	33,680,000	33,630,000
正会員会費収入	18,180,000	18,720,000
学生会員会費収入	3,900,000	3,120,000
準会員会費収入	11,200,000	11,360,000
団体会員会費収入	400,000	430,000
事業収入	20,249,000	15,620,000
欧文研究報告発行业収入	9,849,000	5,500,000
購読料	4,385,000	0
掲載料	3,664,000	4,200,000
別刷代	1,800,000	1,300,000
天文月報発行业収入	4,700,000	4,760,000
購読料	900,000	840,000
別刷代	600,000	520,000
広告料	3,200,000	3,400,000
年会事業収入	5,700,000	5,360,000
予稿集頒布収入	2,300,000	2,000,000
参加費	3,150,000	3,160,000
雑収入	250,000	200,000
補助金等収入	4,700,000	7,700,000
文部省刊行補助金収入	4,000,000	6,900,000
公開講演会補助金収入	700,000	800,000
寄付金収入	10,000	10,000
寄付金収入	10,000	10,000
印税収入	2,200,000	1,900,000
星座早見印税収入	1,700,000	1,700,000
その他の印税収入	500,000	200,000
雑収入	400,000	950,000
受取利息	100,000	50,000
特別企画収入	100,000	100,000
その他の収入	200,000	800,000
特定預金収入	705,000	0
退職給与引当預金取崩収入	705,000	0
当期収入合計 (A)	62,034,000	59,900,000
前期繰越収支差額	9,145,789	20,215,789
収入合計 (B)	71,179,789	80,115,789

支出の部

(単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
事業費	49,923,000	46,500,000
欧文研究報告発行事業費	23,203,000	19,300,000
直接出版費	14,400,000	9,800,000
別刷印刷費	800,000	0
人謝金	5,000,000	6,300,000
送料運搬費	770,000	0
消耗品費	2,083,000	650,000
雑冊索引	100,000	100,000
別冊総索引	50,000	50,000
天文月報発行事業費	0	2,400,000
直接出版費	19,870,000	19,270,000
別刷印刷費	11,700,000	11,400,000
人謝金	580,000	420,000
送料運搬費	1,030,000	1,030,000
消耗品費	2,560,000	2,690,000
雑冊索引	2,900,000	2,820,000
年会事業費	600,000	560,000
予稿集印刷費	500,000	350,000
送料運搬費	6,850,000	7,930,000
年会事業費	2,000,000	2,400,000
謝金	1,100,000	1,100,000
送料運搬費	500,000	1,200,000
消耗品費	1,200,000	1,200,000
人謝金	500,000	600,000
雑冊索引	1,050,000	1,030,000
年会事業費	500,000	400,000
管理費	19,885,000	23,780,000
人件費	8,300,000	7,900,000
謝金	300,000	300,000
会議費	220,000	200,000
負担金	160,000	170,000
旅費交通費	1,000,000	1,300,000
什器備品費	1,300,000	2,300,000
消耗品費	1,300,000	800,000
印刷製本料	1,100,000	800,000
光熱水借料	1,200,000	800,000
賃借料	260,000	250,000
保険料	2,900,000	1,500,000
諸手数料	100,000	100,000
修繕費	250,000	200,000
書籍購入費	300,000	500,000
特別企画調整費	300,000	500,000
雑費	200,000	150,000
退職金支出	500,000	250,000
内地へ繰入金支出	195,000	250,000
有価証券購入支出	0	4,310,000
特定預金支出	0	1,200,000
退職給与引当預金支出	705,000	690,000
減価償却引当預金支出	705,000	190,000
減価償却引当預金支出	0	500,000
予備費	666,789	9,145,789
当期支出合計(C)	71,179,789	80,115,789
当期収支差額(A-C)	△9,145,789	△20,215,789
次期繰越収支差額(B-C)	0	0

収支予算書(案)

(2000年1月1日～2000年12月31日)

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額
	収入の部		
学術交流費	賛助会員会費収入	1,920,000	1,800,000
	受取利息	2,000	5,000
	当期収入合計(A)	1,922,000	1,805,000
	前期繰越収支差額	1,408,837	1,606,837
	収入合計(B)	3,330,837	3,411,837
	支出の部		
学術交流費	学術交流費	2,000,000	2,000,000
	雑費	3,000	3,000
	当期支出合計(C)	2,003,000	2,003,000
	当期収支差額(A)-(C)	△81,000	△198,000
	次期繰越収支差額(B)-(C)	1,327,837	1,408,837
	収入の部		
内地留学 奨学金	受取利息	20,000	15,000
	一般より繰入金収入	0	4,310,000
	当期収入合計(A)	20,000	4,325,000
	前期繰越収支差額	4,390,000	91,925
	収入合計(B)	4,410,000	4,416,925
		支出の部	
内地留学 奨学金	奨学金支出	250,000	250,000
	雑費	3,000	3,000
	旅費補助支出	50,000	50,000
	当期支出合計(C)	303,000	303,000
	当期収支差額(A)-(C)	△283,000	4,022,000
	次期繰越収支差額(B)-(C)	4,107,000	4,113,925
	収入の部		
研究奨励賞	寄付金収入	250,000	100,000
	受取利息	1,000	20,000
	当期収入合計(A)	251,000	120,000
	前期繰越収支差額	5,471,454	5,501,454
	収入合計(B)	5,722,454	5,621,454
	支出の部		
研究奨励賞	研究奨励賞支出	200,000	100,000
	旅費補助支出	50,000	50,000
	当期支出合計(C)	250,000	150,000
	当期収支差額(A)-(C)	1,000	△300,000
	次期繰越収支差額(B)-(C)	5,472,454	5,471,454

日本天文学会評議員会 議事録

日 時：1999年3月26日(金)12時00分～13時00分

場 所：京都大学 人間環境学研究所 会議室1

出席者：家，池内，今井，尾崎，小杉，谷口，長谷川，半田，松田，古屋，上野，岡村，奥田，海部，加藤，小平，小山，鈴木，須藤，福江，福島，吉田

出席者22名。欠席者8名うち委任状4名。

他に理事会から庶務理事大石，柴田，会計理事立松，紀伊が出席

議事に先立ち，議長に福島登志夫氏を，署名人に岡村定矩氏，長谷川哲夫氏を選出した。

(単位：円)

会計種目	科 目	予算額	前年度 予算額
早川幸男基金	収入の部		
	寄付金収入	500,000	500,000
	受取利息	130,000	65,000
	当期収入合計(A)	630,000	565,000
	前期繰越収支差額	16,933,987	18,378,987
	収入合計(B)	17,563,987	18,943,987
	支出の部		
	研究補助支出	2,000,000	2,000,000
	雑費	10,000	10,000
	当期支出合計(C)	2,010,000	2,010,000
当期収支差額(A)-(C)	△1,380,000	△1,445,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	15,553,987	16,933,987	
林 忠四郎賞	収入の部		
	受取利息	100,000	60,000
	当期収入合計(A)	100,000	60,000
	前期繰越収支差額	16,175,149	16,435,149
	収入合計(B)	16,275,149	16,495,149
	支出の部		
	林賞支出	300,000	200,000
	雑費	30,000	20,000
	旅費補助支出	50,000	100,000
	当期支出合計(C)	380,000	320,000
当期収支差額(A)-(C)	△280,000	△260,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	15,895,149	16,175,149	
IAU 記念基金	収入の部		
	受取利息	10,000	20,000
	当期収入合計(A)	10,000	20,000
	前期繰越収支差額	4,000,000	6,432,752
	収入合計(B)	4,010,000	6,452,752
	支出の部		
	雑費	5,000	100,000
	旅費補助支出	2,000,000	1,000,000
	当期支出合計(C)	2,005,000	1,100,000
	当期収支差額(A)-(C)	△1,995,000	△1,080,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,005,000	5,352,752	

議事の経過及び結果

1. 前回(1999年1月23日)の評議員会議事録が報告され，承認された。
2. 1999年度日本天文学会春季総会について報告があった。
3. 1997～1998年度に渡る会費未納者のリストが提示され，その取り扱いについて議論を行った。期限(5月末あたり)を示して督促し，期限内に支払いのない会員は除名することが了承された。なお，除名会員が再び会員になるときは未納分の会費も納入すること，また，除名会員の未納会費は学会の債権として残り，督促を継続することが確認された。
4. その他

- (1) PASJの出版・電子化にの状況について，有本欧文研究報告理事より説明があった。前回評議員会での報告の通り3月末には電子出版を開始できる見込みであること，また，これに伴う費用が当初見込みより約230万円ほど増加する可能性があることが報告された。
- (2) 池内氏より，学術会議便りを天文月報に転載したいこと，99年11月くらいにLMSAシンポジウムを開催したいこと，また，科学研究費補助金の審査員が現在の3名から6名に増えることに伴い次期審査員候補者(12名)は秋口あたりまでに選出する必要がある，ことが報告された。
- (3) 鈴木氏より「すばる望遠鏡完成記念切手」を発行してはどうかとの提案があった。
- (4) 国立大学・大学等共同利用機関を独立行政法人化するかどうかの議論に関し，天文学研究連絡委員会のような場で議論するのが良い，ということで，学会としてもそのような議論をサポートすることを確認した。
- (5) 大石庶務理事より国立天文台総合情報棟の建設に伴い，現在の学会事務所を引っ越す必要があることが報告された。引越し時期は未定であるが，

8月末までには引越す必要がある。

議長 福島登志夫
署名人 岡村定矩
署名人 長谷川哲夫

理事会 議事録

日時：1999年3月27日(土)12時00分～13時00分
場所：京都大学 人間環境学研究所 会議室1
出席者：尾崎, 小山, 大石, 柴田, 立松, 紀伊, 吉川, 上野, 有本, 沢, 大谷, 山岡, 橋本
出席者13名, 欠席者2名うち委任状1名(また, 牧島氏の代理として東京大学理学部物理教室の田代氏が参加)。
議事に先立ち, 署名人を選出した
議長：尾崎洋二
署名人：柴田一成, 大石雅寿

議事の経過及び結果

1. 前回(1999年1月15日)の理事会議事録が報告され, 承認された。
2. 1999年春季年会の報告が吉川年会理事より報告があった。参加者総数は710名, 講演数448(うちポストデッドライン講演が1, キャンセル5件), 記者会見は4件で参加報道機関数は10社, 保育室利用者はのべ5名(他に親子1組の利用), 懇親会参加者が223名であって, 最大規模の年会となることが報告された。
3. 新入正会員の名簿が紹介され, 13名全員の入会が承認された。
4. 1999年秋季年会以降の年会の予定について, 各年会理事より以下のように報告があった。
1999年秋季年会：九州大学六本松地区 1999年10月7日(木)～10月9日(土), 公開講演会は10月10日(日)
2000年春季年会：東京大学本郷キャンパス 2000年4月3日(月)～4月5日(水), 公開講演会は4月2日(日)

2000年秋季年会：ぐんま天文台がホストとなり伊勢崎市で開催。会期は2000年10月5日(木)～10月7日(土)。

5. 定款の細則・内規の改定の進捗について大石庶務理事より報告があった。特に改訂を急ぐ内地留学奨学金に関する規定の改定については7月の理事会で承認が得られるよう, 5月に実務理事会を開催して議論する予定であることが報告された。

6. その他

- (1) PASJの出版・電子化について, 有本欧文研究報告理事より説明があった。欧文研究報告出版に関わる費用が当初見積もりにくらべて最大約230万円増加し98年度予算案に近くなる可能性があること, 電子投稿は1月から開始したこと, 2000年度は購読料の値上げをしないこと, また, 現在の購読契約機関数が約200であること, が報告された。
- (2) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように決定された。
理事会：1999年7月10日(土)
評議員会：1999年7月17日(土)
- (3) 大石庶務理事より国立天文台総合情報棟の建設に伴い, 現在の学会事務所を引越す必要があることが報告された。引越し時期は未定であるが, 8月末までには引越す必要がある。
- (4) ベルーの天文活動を支援するための募金振込用紙を天文月報に添付してほしいとの要望が出された。種々議論の後, 月報に募金を呼びかける記事を載せることとし, 振込用紙の添付はしないこととなった。

議長 尾崎洋二
署名人 柴田一成
署名人 大石雅寿

編集委員	上野宗孝(編集長), 大橋正健, 小野智子, 斎藤芳隆, 田村元秀, 土橋一仁, 内藤統也, 和田桂一
平成11年8月20日	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円)	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359 (事務室)	／ 0422-31-5488 (月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ	http://www.tenmon.or.jp 月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp